名古屋市社会科同好会

同好会ひろば

第254号
H27．9．3
No.3

フィールドワーク報告　日本の食の未来を探る旅～三重県の農業研究と伊勢まぐろ養殖業～

８月７日（金）に、三重県へ行き、農業研究と伊勢まぐろ養殖業について学び、社会科教師としての見識を広げるとともに、日本の食料生産についての理解を深めてきました。

三重県農業研究所

食品メーカー、研究機関、医療機関等と連携して、骨粗鬆症や腎臓疾患の原因となるリンの含有率を低減させた「低リン米」の開発、商品化に成功したこと、最近では「低リン野菜」の研究、開発にも取り組んでいることを学ぶことができました。

「骨粗鬆症や腎臓疾患の方に、安価でおいしい米や野菜を食べてほしい」という熱い思いに触れることができました。

三重県漁連・ブルーフィン三重

漁船に乗って、鯛とまぐろの養殖いけすまで行き、給餌体験を行いました。鯛とまぐろでは、与える餌が違っていたり、養殖いけすを設置する場所や大きさが異なっていたりすることを学ぶことができました。

「伊勢まぐろの養殖で地域振興に寄与したい」という思いや、後継者育成についての苦労など、養殖業に携わる方の切実な話も伺うことができました。

低リン米を開発する必要性や、農業技術を高めるために努力と工夫を重ねる人々の熱意を大変感じることができました。　（東山小学校　岩田　圭司先生）

参加者の声

生で見たいけす、感動しました。目の前で見たので、子どもたちに向けて生き生きと体験談ができると思いました。参加できてよかったです。　（栄生小学校　中村　陽子先生）

昼食に伊勢まぐろを使った「神前丼」を食べました。

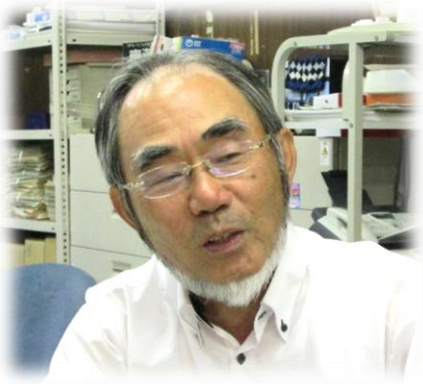
【第254号　紙面】

フィールドワーク報告・・・・・・・・・・・（p１）
訪問インタビュー　中村順一郎　先生・・・（p２・３）
第１回授業力アップ研修グループ全体会　ご講演
　名古屋市社会科同好会研修部会長
　　六郷北小学校長　戸田　一　先生・・・（p４）
小学校部会の活動報告・・・・・（p５・６）
中学校部会の活動報告・・・・・（p６・７）
若手会員学習会・交流会・・・・（p８）
今後の予定・・・・・・・・・・・（p８）

訪問インタビュー

中村　順一郎 先生

名古屋市の社会科教育を発展させるため、研究会委員長、平成20 年の全中社研名古屋大会理論研究部長、校長会社会科部会長などを歴任された中村順一郎先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させていくための貴重なお話を伺いました。



＜経歴＞
昭和 50 年、名古屋市立明倫小学校に着任。以降、愛知教育大学附属小、老松小、笠寺小、川名中を経て、西味鋺小校長に。その後、教職員課管理主事、御幸山中校長、穂波小校長を歴任される。社会科では、研究会委員長、全中社研理論研究部長、校長会社会科部会長などを務められる。
現在は、名古屋市教育サポートセンターにてご活躍されています。

名古屋市教育サポートセンターの仕事について

平成 16 年に教職員課管理主事を務めていた時、講師の任用を担当しました。当時、サポートセンターは人材バンクと呼ばれており、多くの方が講師登録をしていました。私は、講師の方のデータをコンピュータで一元化し、各校に紹介できるシステムをつくりました。教職員課から異動後も、サポートセンターからシステムについての問い合わせがあると対応してきました。そして、退職後もサポートセンターで働くことになりました。

サポートセンターでは、年度末と年度初めに、講師登録されている方を、学校からの要望に合わせて適材適所に配置する仕事を行っています。現在、学校は様々な状況下に置かれており、講師の方も責任の大きい職務に就くことがあります。悩みを抱える講師の方を、励ましたり相談にのったりすることも、役割の一つです。

これからの教育について

多くの講師さんや先生方の話を聞いていると、「教え育てる」教育の「教える」はできても、「育てる」まで手の回らない先生が多くなってきたのではないかと、危惧しています。授業を通して学力や能力を身に付けさせることの他に、生活・生徒指導や学級づくり・学級経営を通して、自主性・主体性、自立心・自律心、責任感・克己心、企画力・運営力、学級自治能力、いじめ等を絶対に許さないという人権意識などを育ててほしいのですが、大丈夫かなと心配しています。

小・中学校の両方で勤務したことから学んだことがあります。中学校では、10 人ほどの先生がチーム（学年）を組んで、学年の生徒の指導に当たっています。卒業までの３年間を見据えて、先生同士が互いのよさを生かしつつ、足りない部分をカバーし合って取り組むので、チームの和が崩れない限り生徒は育っていきます。小学校では、学級編制も担当する担任も、毎年シャッフルするようになったために、６年間を見通し、それぞれが責任をもって子どもを育てていこうとする意識が薄らいでいるのではないかと感じます。小学校でも、教頭、教務、校務、養護教諭に学年主任に担任が、チームをつくって事に当たれば、難しい保護者への対応も、手のかかる高学年の子どもの指導もうまくいったという学校経営の経験が私にはあります。ぜひいろいろな学校で、それぞれの立場で挑戦してみてほしいと思います。

若い先生方に伝えたいこと

若い先生方に伝えたいことがあります。一つ目は、子どもを育てるためには、子どもに身に付けさせたい能力を見極め、子ども自らが身に付けるための場を意図的・計画的設定して、自主的・創造的な活動を保証することが大切だということです。では、そのような場をどうやって設定すればよいのでしょうか。私は、小集団活動を取り入れ、様々な工夫を施して、子ども同士が鍛え合って成長できるようにしてきました。学級経営を工夫し、学級づくりに知恵を絞ってください。

二つ目は、子どもから学ぶ姿勢をもつということです。子どもから学ぶためには、何を学び、これからの自分の指導にどう生かしていくかを分析して、子どもや同僚に説明できることが大切です。と同時に、教育に対する素直さも必要です。子どもの育ちを分析してみて、「なぜ力を伸ばすことができなかったのか」「自分の指導のどこが悪くて、どう是正していけばいいのか」等を自分自身が反省して、次に生かしていかなければなりません。教育とは、青年教師にとっては「共育」です。子どもと共に、人間として教師として育っていくのだという強い気概をもつ必要があります。

命を削って仕事に取り組み、子どもたちの成長やはちきれんばかりの笑顔から多くのエネルギーをもらって、日々研さんを積み上げることのできる教師を目指してください。

同好会の活動についてだけでなく、教育活動全般に対して、多くのご示唆をいただきました。

社会科同好会に期待すること

社会科同好会は、名古屋の教育発展に資する人材を育成する場です。同好会で学んだことが、社会科以外の教科も含めて、日々の子どもの教育に生かせなければなりません。「同好会の活動は一生懸命頑張るが、学校の仕事はそこまでではない人がいる」という話を聞いたことがありますが、絶対にいけません。校内で役立つ先生になるため、同好会で学んでいるのです。校内で社会科の授業が苦手な先生方に声を掛け、多くの資料を提供して、共に質の高い授業づくりに励んでください。同好会の仕事が忙しい人ほど、どれだけ校内の仕事を頑張れるかが大事です。

同好会に来て学ぶのは、自分のクラスの子どもを育てるためのヒントを探し、見付けるためです。自ら先輩の門をたたいてください。その中で、叱られ、突き放されることもあるでしょう。それでもはい上がり、乗り越えようとする気持ちの強さを身に付けてほしいと思います。そういうエネルギーを同好会で、もらってほしいと思います。

来年度に行われる全小社研名古屋大会では、同好会の会員が、大会にどう関わって協力していけばよいのかを考えることが大事です。大会を終えた後に、会場校の先生方がやってよかったと思える、大会を引き受けたことで会場校の子どもが育ったと思えるような大会にしてほしいです。子どもの成長は、毎日の授業の積み重ねの上に成り立ちます。それを保証するのが同好会の役割です。同好会の力を結集して、全小社研名古屋大会が成功に終わることを期待しています。

第１回授業力アップ研修グループ全体会　ご講演

「私のたまてばこ　パート２　～地域素材の収集と活用～」

名古屋市立六郷北小学校長　戸田　一　先生

８月４日（火）に行われた第１回授業力アップ研修グループ全体会では、戸田一先生のご経験を基に、地域素材を活用する上で大切なことをご講演していただきました

○　私が若い頃に学んだことは

以前は、「身近な地域素材」と「体験活動」が重視されていました。私の当時の体験記録も「身近な地域素材を活用した社会科学習」というテーマで書いたのです。初任から６年間は、子どもたちが社会的事象をイメージ豊かに描けるか、実感できるかということを必死に追究していました。そして、子どもたちに社会的事象を身近に感じさせて追究させていくと子どもの目の輝きが違うことを感じ、教師がその素材を自分の目と耳と足で集めると、子どもにもその思いが伝わるということを確信しました。

○　集めた素材を教材へと

身近な地域素材というと学区や名古屋市内など距離的な近さを考えがちですが、距離の近さではなく、教師が子どもに身近に感じさせたいと思った素材は、すべて心の面で身近な地域素材と言えます。つまり、子どもにとって、心の距離の身近さが大切だと思います。

現地へ行き、取材して集めた膨大な資料の中からほんの一部をお見せします。これはどこでしょう？そう吉野ヶ里遺跡です。元寇の防塁、皆さんもご存じ、原爆ドーム。名古屋市内では、東別院の灯籠、栄国寺の灯籠、これはどちらも中区にありますが、２つを比べるところに意味があるのです。栄国寺の灯籠は胴体が膨らんでいます。これは十字架を表しています。つまり、キリシタン灯籠なのです。栄国寺は、この地域の隠れキリシタンの遺物を展示してある寺であり博物館なのです。こうして集めた素材を活用するためには、その素材の限界性と最大限活用するための位置付けをしっかと考えることが大切です。そして、その素材を活用して何を捉えさせるか、ねらいを明確にすることが大切です。

「徳川家康と江戸幕府」という小単元を特設して、名古屋城を教材化したこともあります。名古屋城を築城した大名について名古屋城見学で探ってきます。名古屋城の石垣の刻印探し活動です。刻印を探し、築城に携わった 20 人の大名について調べていくと、子どもたちはあることに気付きます。すべてが外様大名だということです。どうして外様大名ばかりに工事をさせたのだろうという疑問が生まれ、「外様大名にお金や労力を使わせたかったから」「少しでも外様大名の力を弱めるためだ」ということに気付いていくのです。こうやって名古屋城に見学に行って、名古屋城の守りの工夫や石垣の刻印の謎を解き明かすうちに、子どもたちは家康の江戸幕府を安定させるための大名統治の知恵や工夫を捉えていくことができるのです。

○　私が目指してきたもの

まずは、教科書をきちんと教えることが大切です。押さえるべき事実をきちんと教えるという大前提を大切にしてほしいと思います。それともう一つ、どの学年でも校外学習に出掛けると思いますが、出掛ける前に見学の視点を明確にして、問題意識を高めてから見学に行くようにすることも大切です。

この前も６年生を名古屋城へ連れて行きました。名古屋城を使って授業をすれば、名古屋城のことは市内で一番詳しい６年生だと自信をもたせることができます。皆さんもこれからの授業の中で地域素材を活用して、この単元の授業は人には負けない、譲れないという得意な単元や授業を築いていってほしいと思います。

７月小学校部会活動報告　７月 24 日（金）於 愛知県スポーツ会館

学習問題づくりと、「分かる」段階から「関わる」段階へのつなぎ方に重点を置いた１学期実践の成果と課題を各学年グループが発表し、２学期実践に向けての改善点について協議を行いました。

各学年の１学期実践から明らかになったこと

学習問題づくりについて

３年生グループの「地下鉄の路線図」、５年生グループの「給食で使われる大豆の割合」、６年生グループの「名古屋まつり」は、子どもが直接見たり、聞いたりしたことのある社会的事象であり、授業の導入で出合わせることで、子どもの興味・関心が高まり、追究意欲を喚起することにつながった。また、４年生グループの実践から、予想を話し合う際、教師が適切な問い掛けをしたり、資料提示を工夫したりすることが、追究の見通しをもつ上で効果的であることが明らかとなった。

「分かる」段階から「関わる」段階へのつなぎ方について

４年生グループでは、つなぎ方の工夫として、「見つめる」段階で使用した資料を、「関わる」段階で再度提示し、学習を振り返るようにしたことで、子どもの思考を途切れさせることなく実践を進めることができていた。一方で、３・５年生グループが行った新たな事実の提示やゲストティーチャーからの投げ掛けといったつなぎ方は、学習の流れに唐突感が出てしまい、子どもの思考が途切れてしまった。また、歴史学習での「関わる」段階へのつなぎ方について協議がされた。つなぎ方の工夫として、「なぜ、その人物が〇〇をできたのか？」といった問い直しをすることで、人物の業績を子どもが捉え直し、歴史的事象の理解を深めることができるのではないかという意見が出された。

ご指導・ご助言　　**名古屋市社会科研究会　副委員長　正保小学校　須田　洋　先生**

〇　学習問題については、子どもの問題意識を大切にしようとするあまりに、疑問のレベルに留まったり、単元の目標に迫れないものになったりしないように留意する必要がある。また、どの学年グループも学習問題を設定する前後に、子どもが本気で調べたくなるような流れになっていないことは大きな課題である。子どもの予想を類型化することに授業が終始し、教師が意図する追究の視点を子どもに押し付けている感がある。子どもから「自分の予想が正しいかどうか確かめたい」という思いを引き出すためには、多様な予想の中から「ずれ」や「対立」を捉えて意図的に揺さぶりを掛けるようにする「教師の出番」が重要である。

〇　「関わる」段階については、教師がやらせたいことが先立って、拙速に「自分ができることは？」「どのような社会の仕組みにするとよいか？」などと問う授業展開にならないように留意する必要がある。人々の営みや社会の仕組みに対して「すごいな」とか「何とか課題を解決しないと」という思いを子どもから引き出すことができるように、「分かる」段階における追究の在り方を見直すようにするとよい。子どもなりに実感を伴いながらよさや課題を見いだすことができるようにすれば、あとは、子どもに委ねても、自然に社会の在り方に対する関心を高めたり、関わり方を考えたりするようになる。

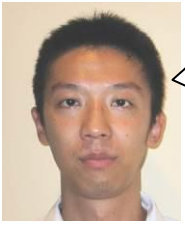
７月小学校部会に参加して

７月小学校部会に参加した先生方から、様々な声が寄せられました。寄せられた「声」の中から一部を紹介させていただきます。

○　猪高小学校　　木田　泰助　先生

初めて小学校部会で実践についての発表をさせていただきました。ご指導・ご助言から、子どもの「学びたい」という意欲を引き出すために、子どもの予想のずれを生かし、予想を確かめたくなるような学習問題をつくり、子どもとともに楽しみながら社会科の授業を行っていきたいと感じました。

○　新栄小学校　　後藤　康宏　先生



社会科同好会に参加して感じることは、実践は自分一人で行うものではないということです。先輩の先生方をはじめ、共に学ぶ同輩、後輩の先生方からも新しい視点で意見をいただくことができます。実践に行き詰まり悩んでいる時に、たくさんの方々の力をお借りしたことで、同好会のつながりを強く感じました。

７月中学校部会活動報告　７月 24 日（金）於 愛知県スポーツ会館

各分野グループが１学期に取り組んだ「プレ活動」について報告がありました。

地理的分野グループからは、単元「中部地方」において、「中部地方」の地域的特色を捉えるために、水と産業との関わりを中心とした実践の報告がされました。名古屋の水はどこから来ているのかをたどる実践者自作の映像資料を見せ、中部地方は日本アルプスの水でつながった地域であることを捉えさせた後、「中部地方の産業が発展してきたのはなぜだろう？」を学習課題に設定しました。そして、生徒が学んだ内容を「自然」「農業」「工業」「エネルギー」などにキーワード化し、班ごとにグルーピングする活動を行うことで、地理的事象と人々の暮らし・産業を結び付けて考えることができたことが成果として上げられました。

歴史的分野グループからは、単元「幕藩体制の確立と鎖国」において、江戸幕府が長く続いた理由について考える実践の報告がされました。鎌倉幕府、室町幕府、江戸幕府を比較し、江戸幕府が他の２つの幕府より長く続いたのは大名の統制、農民の統制のどちらが効果的だったのかについて、ホワイトボードを活用しながら考えの見える化を行い、異質グループと同質グループに分かれた話し合い活動を行うことで、気付きが増え、考えが深まったことが成果として上げられました。

公民的分野グループからは、単元「現代社会の見方や考え方」において、架空のマンションにおける「夜間の騒音問題」について、それぞれの立場を踏まえた話し合いを行い、静かに過ごすための解決策を考える実践の報告がされました。対立する意見を合意に導くために、各世帯の実情や騒音の程度、相手の世帯への要望などを「効率」と「公正」の観点から分類、整理し、ロールプレイの手法を用いた話し合い活動を行うことで、考えが深まり、他の視点に気付くことができたことが成果として上げられました。

その後の質疑応答では、「よりよい社会」を実現するための具体的な「学び合い」の手立てについてなど、若手の先生方もベテランの先生方も積極的に質問を行い、白熱した議論が繰り広げられ、２学期の実践に向けて、各分野の方向性が明らかになっていきました。

今回は夏季休業中にもかかわらず､新入会員の先生２名を含めた 25 名の先生にご参加いただきました。また、会終了後、会場近くで行われた有志の懇親会にも 12 名の先生方にご参加いただき、中学校会員の絆を深めることができました。次回は９月４日（金）19：00 から愛知県スポーツ会館で、２学期実践計画の検討を中心に行います。

皆さん、ぜひご参加ください。

７月中学校部会に参加して

７月中学校部会に参加した先生方から、様々な声が寄せられました。寄せられた「声」の中から一部を紹介させていただきます。

○　丸の内中学校　西脇　佑　先生

各分野の学習活動の工夫や教材化の工夫を聞くことができ、非常に勉強になりました。自らの授業にも生かしていきたいと思います。また、質疑応答では活発な意見交流がなされ、自分が気付かなかった点に気付かされました。

○　前津中学校　松原　孝峰　先生

４月に採用されて、右も左も分からない状態です。これまでどうやって社会科を教えるか、分かりやすく教えられるかを念頭に置いてきました。実践報告を聞いて、社会科を通してどのような生徒を育てるか、どのような生徒の変容がみられるかを考えることの大切さを感じました。

若手会員学習会・交流会

８月 18 日（火）に、若手会員の先生が一堂に集まり、事務局員も参加して、東京第一ホテル錦で学習会と交流会を行いました。普段は授業力アップ研修グループを中心に活動をしている若手会員の先生が、この日はグループの枠を越えて学び合い、交流を図ることができました。

前半は第１部として、学習会を行いました。若手会員の先生からは、「学習問題をつくる時の授業は、どのように進めていくとよいか」、「〇〇の単元の導入では、どうしたら面白い授業がつくれるか」、「調べ学習の具体的な進め方を知りたい」「体験記録のまとめ方を知りたい」など、様々な質問が出されました。その様子からは、日頃の授業づくりや指導に熱心に取り組み、少しでもよい授業をつくりたいという若い先生方の熱い思いを感じ取ることができました。質問には、事務局員が答えたり、若手会員の先生同士で意見を交換し合ったりと、予定した時間があっという間に過ぎてしまうような、充実した学習会となりました。

後半は第２部として、交流会を行いました。学習会だけで足らなかった授業の話に花を咲かせたり、授業以外の仕事のことを話したりと、情報交換や横のつながりを広げることができました。

夏休みにも関わらず、多くのやる気のある若手会員の先生にご参加いただき、実りある会となりました。

３学期に、第２回の若手会員交流会を予定しています。案内は、改めて送付させていただきます。ぜひ、ご参加ください。

今後の予定

９月　４日（金）小学校部会　18:30～　愛知県スポーツ会館
９月　４日（金）中学校部会　19:00～　愛知県スポーツ会館

10 月 16 日（金）名古屋市教育研究員公開授業・研究協議会
笈瀬中学校　岡村佳和　先生　第５時限 13:20～

10 月 29 日（木）・30 日（金）　全小社研　広島大会
11 月　５日（木）・６日（金）　全中社研　岐阜大会

11 月 18 日（水）懇親会　19:00～　ルブラ王山

ベテランから若手まで、多数の会員が参加します。人とのつながりをどんどん広げませんか。